

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|-------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 施設内の掲示や毎月の全体ミーティングでの読み合わせなどで周知している。特に個別支援に重点を置き始めてからは、入居者様一人ひとりの要望を掘り起こし、実現を模索する過程で、理解が深まっているように思う。 | 理念は、フロアの目の付きやすいところに掲示されており、毎月の全体ミーティングでも読み合わせを行い理解が深まるよう努めている。また管理者は、職員の理解が更に深まるよう、個別ケアの実践を通じて指導している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | 散歩などで気軽に声をかけ合うことができている。コロナ禍で地区の運動会や文化祭も中止となっており、出かけることはできないが、育てた花や野菜を届けてくれる方がいる | コロナ禍のため地域ボランティアの訪問や、これまで参加していた地区の運動会や文化祭、お祭りが中止になっており再開が待たれる状況。現状、散歩の際の声掛け、野菜や花などのやりとりで近隣住民との交流あり。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 地元町内には合歓の様子を機関紙「ほっとねむ」で数カ月おきに回覧配布し、法人のブログでも発信している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。 | コロナ禍であり行政の指導により「地域交流会」は開催していないが、隔月で近況報告を行い、サービス内容について意見をお聞きする体制を整えている。 | コロナ禍のため運営推進会議は開催されていないが、参加されていた方や関係機関へは、隔月で近況や期間内の活動内容等が文書で報告されている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。 | 定期的に活動内容を伝え、市からも情報提供を受けている。機関紙「ほっとねむ」もその一助を担っている。市の介護相談員が年1回、合歓を訪れ、入居者様から聞いた内容や相談員自身の感想を伝えてくれる。 | コロナ禍のため直接連携する機会は減っているが、前出の報告書や機関誌「ほっとねむ」を通して情報を共有する等、文書や必要時の電話などにより連携を図っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束は行わないことを原則としている。日中の施錠もしていない。 | 身体拘束を行わないことを原則として、現在玄関の施錠をはじめ一切身体拘束は行われていない。コロナ禍においてもeラーニングを用いた研修を定期的に行い、拘束に関する理解を深めて取り組まれている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 研修に参加した職員がミーティング時に伝達している。お互いに注意を払い虐待が発生しないよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 研修に参加した職員がミーティング時に伝達している。成年後見制度を利用している入居者様が存在することで、権利擁護を考える機会になっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約時や制度も含めた改定が行われた際は、事業所の考え方や取り組み、入居から退居までの事業所の対応の範囲などについて、文書で説明を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | コロナ禍で地域交流会や家族会が開催できずにおり、面会も制限している為、家族の意見や希望を直接お聞きする機会は減少しているが、毎月担当が手紙を書き、様子を伝えている。 | コロナ禍のため、地域交流会や家族会が開催できず、面会も制限されている為、家族の意見や希望を直接伺える機会が減少している。その中で担当職員が、家族に対して、月に1回手紙で施設での様子を詳しくお伝えし、意見や要望などがあれば連絡をいただくようにしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 毎月の全体ミーティングに合わせ、それぞれで感じている懸案事項を改善提案シートに記入して提出してもらい、話し合っている。取り組みに変更があれば、次回ミーティングなどで結果を検証している。 | 毎月開催される全体ミーティングには、各職員が懸案事項等を記入する「改善提案シート」を事前に提出してもらい、話し合いが行われているなど、職員から意見、提案を吸い上げ、運営に反映する仕組みがある。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 個人の目標管理設定手法、改善提案シートを使用し介護職員処遇改善加算を算定している。更に特定処遇改善加算も算定し給与体系の改善も実施している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 認知症介護実践者研修を毎年1名が受講することで、介護に関する新しい考え方やツールを全体が学べるよう心掛けている。目標管理、改善提案シートでの提案などを検討することがトレーニングにつながっている。e-ラーニングを導入した。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | 昨年、市内のグループホームの計画作成者で集まり、勉強会を兼ねた食事会を行った。大変好評で、次は管理者の会をと話していたところでコロナ禍となってしまう、開催できずにいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----------------------------|-----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | 入居時の情報を職員間で共有し、困りごとや不安に思うこと、要望など、本人の気持ちをしっかりと聞き、安心して過ごすことができるよう心がけている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | 入居前の情報収集時から、家族の話ができるだけ聞くよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 入居者と家族のニーズを把握し、事業者として他職種との連携も視野に入れた対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | 同じ屋根の下で暮らす者同士、家事や行事、レクリエーションなどを通して、互いに協力しながら穏やかに暮らせるよう関係作りを努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 家族には定期受診の結果をはじめ、衣類や小遣いの補充などこまめに報告、相談するように心掛けている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | コロナ禍であり、外出の機会は随分と減ってしまったが、美容院や床屋、個人商店への買い物など密を避け、感染対策を十分に持って最低限の支援をしている。歌の会や外食などは、現時点では難しい。 | コロナ流行前と比較して外出の機会は減っているが、近隣の散歩や個人商店への買い物など、密を避ける工夫をして支援されている | コロナによる制限が緩和された際は、開始早々にコロナ禍で中断された個別外出が再開され、関係継続の支援を通して入居者が満足されるだけでなく、職員のチームケア実践力、やりがいの向上に繋がることを期待します |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | 数人ずつでの外出や散歩、家事などを通して互いに協力し、支え合えるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|------------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | 退居された方をこちらから積極的にフォローすることは難しいが、求められれば相談、支援をするよう心掛けている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 職員間で気づきを共有しあえるようにミーティングやカンファレンスなどの機会に話し合い、把握に努めている。 | 日々の生活を通して把握された利用者の思い、意向等は、定期的カンファレンス以外でも、1日3回行われる申し送り等の際に、随時ミニカンファレンスが開かれ、話し合いが行われ、記録もされている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 入居前の暮らしぶりについては、本人との日々の会話の中から発見することも多い。家族からも入居後、話を聞くよう努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 朝夕の申し送りや昼ミーティング、あるいはカンファレンスなどの機会に気づきを出し合い、必要な情報は共有するよう努めている。伝達漏れがないよう、申し送り表などのツールの改善も常に検討している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | 介護計画の見直し時には、疑問に思うことは家族からも情報提供を受け、必要に応じて医師からの助言も参考にカンファレンスに役立てている。 | 本人・家族の意見や要望に加え、前出の通り1日3回行われる申し送り等の際に、随時ミニカンファレンスが開かれ話し合いが行われると共に、必要に応じて医師や法人内の看護師、栄養士等のメンバーが連携し、意見やアドバイスをもらうことが出来ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 日々の記録や申し送りなどにより、共有を図っている。申し送り時のルールも随時見直している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | サービスの多機能化についてはまだ検討の域を出していない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | コロナ禍により、地域資源の活用がなかなか難しい状況である。定期的に美容院や床屋に行くくらい。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 入居者と家族に主治医を選んでいただいている。受診前には必ずミーティングを開いて、個人のカルテやノート(外部受診)に記載し、医師に報告している。 | かかりつけ医は、本人及び家族の意向が尊重され、自由に選ぶことが出来る。また協力医以外に受診する際、家族が付き添えない場合は職員が同行している。受診前にはミーティングが開かれ心身状態を確認。受診時に適切な医療を受けられるように支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 隣接する伊那神経科病院の訪問看護師とは情報交換を常に心がけ、必要な医療を受けられるように努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入居者が入院した際は情報提供書による伝達のほか、早期に入院先を訪問し、情報交換するよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 重度化した場合の対応を文書化し、入居時に事業所としての方針を説明、同意をいただいている。入居後は面会や家族会の機会に確認することもあるが、状況に余裕がある間は話題にならないことも多い。 | 「重度化した場合の対応に関する指針」が作成され、入居時に説明し、同意を得ている。入居後は、重度化への変化が見られたり、考えられる場合に本人、家族と面談し対応を検討している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 隣接する伊那神経科病院の受診時や看護師の健康チェック時に、医療的な疑問は随時質問し、アドバイスを受けている。事故後は、対応について反省し、全員が経験を今後に生かせるよう努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 法人全体の訓練も含めて年3回の避難訓練を実施している。避難マニュアルの見直しも法人の防災委員会を中心に進められていて、BCP計画についても検討している。 | 隣接する関連施設を含めた法人全体で防災計画が作成され、防災委員を中心に連携が図られている。避難訓練は年3回実施。食料品や介護用品等の備蓄は隣接する関連施設に保管されている。10年前より地域との間に防災協定が結ばれている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | 本人の言動をできるだけ受け入れ、その奥にある感情を想像するよう心掛けている。1ユニットだと入居者との距離が近くなりすぎてしまいがちなので、礼節をわきまえた言動ができているか、振り返ることも多い。 | 利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉掛け、対応ができているか、年1回の接遇研修だけでなく、管理者が中心となり、日頃から振り返りを行い、適宜指導がされている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | 意思表示ができる入居者からは、直接本人の意向を丁寧に聞き取るよう努めている。意思表示が難しい場合は、情報や日々の介護から把握してきた性格、表情などから察するようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 基本的な流れはあるが、本人の気持ちや体調を大切に、職員側の都合を優先させることがないよう心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 本人の好みを尊重しながら、天候や季節に合った装いになるよう支援している。生活にメリハリをつけるために、朝晩のパジャマ更衣も声掛けや介助により実施している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 調理や配下膳、片付けまで個々の能力に応じた関わりを意識している。入居者間の相性や誤解から衝突する場面もあるので、未然に防ぐために準備や食席の位置などを工夫している。 | 調理や配下膳、片付けまで個々の能力に応じた関わりがされていた。職員が食材の買い物から調理まですべて行っており、職員が日頃の関わりから入居者の食の嗜好を把握しており、献立に反映されていた。また併設施設の栄養士が栄養面を確認するシステムもある。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 食事や水分の摂取量の把握に努め、少ない方には食事形態を変えたり、補助食品や好みのおやつなどを用意して随時提供している。体重の変化も担当者が毎月評価し、ミーティングで対応を検討している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 介助が必要、あるいは重点的に口腔ケアに取り組んでいる方には付き添って実施している。必要に応じて協力歯科医師の診察を受けている。毎月の口腔ケア研修を担当者が受講し、ミーティングで伝達している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。 | ポータブルトイレを使用する方が2名いて、介護用品や支援の方法を随時検討している。おむつや尿キャッチの使用についても、定期的に検討している。 | 排泄の失敗やおむつ使用量を減らすため、一人ひとりの状況により、トイレに行く時間や支援方法を検討したり、使用するおむつ等も一律ではなく、個別に適したものを選んで利用していた。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 適度な運動や水分摂取、野菜を中心とした献立などでスムーズな排便が継続できるよう努めている。不快を訴えられない入居者の言動も、排泄という視点を持ちながらよく観察するようにしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。 | 一定のパターンはあるが、受診や散髪、体調など本人の都合を考慮に入れて組み立てている。 | ユニットの家庭的な風呂場だが、広さも十分ありリフト浴も可能。マンツーマンでの対応で1日3名の方が、本人の体調、都合などを考慮に入れて午前若しくは午後に入浴されている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 前夜の睡眠や体調に応じて午睡ができるよう支援するほか、夜間はそれぞれのペースで安心して就寝できるような支援に努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 伊那神経科病院に主治医を置いている入居者は、処方薬局の薬剤師から情報提供を受け、職員間で共有している。他のケースでも不明な点は随時確認している。特に処方変更時の状態の変化には注意している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 可能な限り「その人らしさ」を引き出せるよう職員体制や環境、用具など支援方法を試行錯誤している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | コロナ禍であり、外出は最小限となっている。散歩、受診、理美容くらい。 | コロナ禍のため外出機会は最小限となっているが、気候が良ければ法人敷地内を毎日のように散歩し、密を避けながら馴染みの理美容室を訪れている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(評価機関記入) | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 金銭管理は職員が行っている。買い物も現在は職員が行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 電話の希望があれば、対応している。暑中見舞いや年賀状を写真入りや自作の押し花のはがきを用意し、書ける人には一言添えてもらい投函している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | テレビ、CDの音量や日差しが不快を招かないよう配慮している。ひな人形や七夕の竹飾り、お盆の飾り物など季節や行事に合わせて演出したり、入居者が手掛けた生け花や作品を飾っている。 | 天井が高く、窓も多い為明るく、開放感がある。壁には腰板、床は木目調、天井には木の梁が何本も通っているため全体に木のぬくもりが感じられる。施設の中央に畳の和室コーナーがあり、床の間には入居者が生けた生け花が飾られている。季節に応じた飾りつけがなされ落ち着いた空間づくりがされている | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 共有スペースの広さを活かして、それぞれが気に入った居場所を見つけられるよう支援している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 入居時には、できるだけ本人が落ち着ける居住空間となるよう、慣れ親しんだ家具や生活用品の持ち込みを家族と相談している。入居後も随時提案したり、要望を聞いている | 居室は余裕のある8畳程。出窓があり明るい印象。嗜好により洋室と畳のある和室が用意されている。慣れ親しんだタンス等の家具や生活用品が持ち込まれている。ドアのステンドグラス、落ち着いた色の壁紙と濃茶色の床が居心地の良い空間を演出している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 室内に自分で洗濯物が干せるよう、用具を揃えたり、転倒予防や希望に応じて家具のレイアウトを変えるなど、安全な生活の場になるよう努めている。 | | |